

令和元年度 事業報告書

自 平成 31 年 4 月 1 日
至 令和 2 年 3 月 31 日

事業概況

令和元年度の日本経済は、内需を中心に緩やかな回復が続いていましたが、年度末から中国発の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響が我が国においても全国的な広がりを見せ、業界・規模を問わず大幅に景況感が悪化しております。

日本航空協会は、従前より航空宇宙諸般の進歩発展に邁進しており、文化情報事業としましては機関誌『航空と文化』の発行や定例講演会を実施し、航空宇宙の各分野で活躍されている方々のご協力をいただき、新機種導入に関わる航空会社の取組みや、技術革新による空の移動革命の実現に向けた国を挙げた取組み、宇宙開発における日本ならではの長年にわたる工夫した成果、そして航空機開発におけるテストパイロットの視点に至るまで、広範な話題をみなさまへご紹介しました。また、今年度より『数字でみる航空』の発行を始め、航空図書館では、ホームページでの検索機能強化やスタッフへの相談しやすい環境作りなど、利便性向上に務めました。航空遺産継承では寄贈頂いた資料の保存に関する研究を東京文化財研究所と共同で進めると共に、航空遺産の収集、調査、保存に務めました。本協会所有の三式戦闘機「飛燕」の岐阜かかみがはら航空宇宙博物館における展示も継続しました。

航空スポーツの分野では、国際航空連盟（FAI）の日本における会員（NAC: National Airport Control）として FAI 総会や関連国際会議への参加、日本選手権や世界選手権出場への公認、日本記録や世界記録の承認や管理、FAI 等が主催する国際競技会への日本選手団の派遣など、これまでの支援活動を継続いたしました。さらに、FAI 青少年航空宇宙絵画国際コンテストおよび航空スポーツ教室ならびにこども模型飛行機教室を開催し、こどもたちの空への憧れや科学する心を育む事業も実施しました。

国際線発着調整業務では、成田国際空港、東京国際空港（羽田）、関西国際空港、新千歳空港、福岡空港の 5 混雑空港に就航する国際・国内定期便のスケジュール調整に関し、諸制約を踏まえつつ IATA（国際航空運送協会）のガイドライン等に則って、中立性、公平性、透明性等を確保しつつ、業務を行っております。

上記を含む当協会のさまざまな公益事業等を本年度も予定通り実施し、その遂行に欠かせない収入の財源である航空会館運用事業につきましては、その収入の最大化と費用圧縮により収益の維持増加に努めました。

各事業の詳細は後頁の通りとなりますので、ご参照願います。

第 1 庶務事項

I . 会 議

1 . 評 議 員 会

第 1 1 回評議員会を令和元年 6 月 1 3 日に開催し、平成 3 0 年度の決算、理事、監事、評議員の選任について承認可決した。

理事、丸山 博 氏のご逝去に伴い、甲斐 正彰氏を理事として補欠選任する件について、第 1 2 回評議員会の書面によるみなし決議として、令和元年 1 1 月 1 日に承認可決した。

2 . 理 事 会

第 2 5 回理事会を令和元年 5 月 2 2 日に開催し、平成 3 0 年度事業報告並びに平成 3 0 年度決算（貸借対照表、正味財産増減計算書、並びに同付属明細書）、平成 3 0 年度 公益目的支出計画実施報告書、評議員会の招集、顧問の選任について承認可決した。

第 2 6 回理事会を令和元年 6 月 1 3 日に開催し、評議員会で選任された理事の中から会長（代表理事）、副会長、専務理事並びに常務理事を選定する件について、理事 篠辺 修 を会長（代表理事）に、理事 萩尾裕康 並びに 理事 丸山芳範を副会長に、理事 佐藤信之を専務理事に、理事 湯本到、理事 大山拓也並びに理事 山田圭一を常務理事に選定することについて承認可決した。

理事、丸山 博 氏のご逝去に伴う理事 1 名の補欠選定について評議員会を開催すべく、評議員会の招集について、第 2 7 回理事会の書面によるみなし決議として、令和元年 1 0 月 1 1 日に承認可決した。

理事、武田 洋樹氏が 3 月 3 1 日付で辞任した為、理事 1 名の補欠選定について評議員会を開催すべく評議員会の招集について、第 2 8 回理事会の書面によるみなし決議として令和 2 年 2 月 1 7 日に承認可決した。

第 2 9 回理事会を新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面開催とし、令和 2 年度事業計画 及び 予算について令和 2 年 3 月 3 1 日に承認可決した。

3 . 常 任 理 事 会

令和元年度は常任理事会を 1 1 回開催し、重要な案件について審議し、協会事業の確実な執行と監督を実施した。

第 1 回	平成30年 4月25日	各事業活動状況の報告。
第 2 回	令和元年 5月16日	平成 3 0 年度事業報告及び決算の件、平成 3 0 年度公益目的支出計画実施報告書の件、評議員会招集の件、顧問の選任。会長（代表理事）、副会長、専務理事並びに常務理事（業務執行理事）の職務執行状況報告、理事、監事並びに評議員の選任（案）、について承認。各事業活動状況の報告。
第 3 回	令和元年 6月20日	日本航空協会表彰委員変更について承認。各事業活動状況の報

		告。
第4回	令和元年 7月30日	青少年航空宇宙絵画国際コンテストにおける日本航空協会会長賞の新設について承認。各事業活動状況の報告。
第5回	令和元年 9月12日	各事業活動状況の報告。
第6回	令和元年10月17日	各事業活動状況の報告。
第7回	令和元年11月21日	各事業活動状況の報告。
第8回	令和元年12月17日	各事業活動状況の報告。
第9回	令和2年 1月23日	資金運用管理方針及び理事の交代について承認。各事業活動状況の報告。
第10回	令和2年 2月20日	表彰委員任期満了にともなう選任及び航空遺産継承基金専門委員委任について承認。各事業活動状況の報告。
第11回	令和2年 3月19日	令和2年度事業計画及び予算についての承認。各事業活動状況の報告。

II. 役員人事

1. 理事

令和元年 6月13日	退任(4名)	野村 吉三郎、久保 小七郎、高橋 朋敬、 中満 悦郎
令和元年 6月13日	就任(23名)	篠辺 修、萩尾 裕康、丸山 芳範、 佐藤 信之、湯本 到、大山 拓也、 山田 圭一、武田 洋樹、東 昭、伊藤 義郎、 今清水 浩介、岩崎 貞二、太田 耕治、 岡田 清、長田 太、門脇 邦彦、 後藤 昇弘、近藤 晃、戸矢 博道、 縄野 克彦、濱尾 豊、丸山 博、渡辺浩一郎
令和元年 8月 2日	辞任(1名)	丸山 博(死亡退任)
令和元年11月 1日	就任(1名)	甲斐 正彰
令和2年 3月31日	辞任(1名)	武田 洋樹

2. 評議員

令和元年 6月13日	退任(1名)	田口 久雄
令和元年 6月13日	就任(1名)	鈴鹿 靖史
令和元年11月 3日	辞任(1名)	鍛冶 壯一

3. 監事

令和元年 6月13日 退任（1名） 福島 進
令和元年 6月13日 就任（2名） 高橋 朋敬、田口 久雄

4. 顧問

令和元年 5月22日 退任（1名） 八木 功
令和元年 5月22日 就任（3名） 野村 吉三郎、久保 小七郎、江塚 春夫

III. 賛助員

平成20年に「公益法人制度改革関連法」が施行され、それに則り日本航空協会は平成24年7月2日に一般財団法人に移行を完了した。これを機に新定款にて新賛助員制度を設け、日本航空協会の事業全般に賛同する法人及び個人の方々へ賛助をお願いしている。

令和元年度実績 法人賛助員 133口（14法人）

全日本空輸株式会社、日本航空株式会社、株式会社梓設計、朝日航洋株式会社、鹿島建設株式会社、兼松株式会社、国光施設工業株式会社、新中央航空株式会社、双日株式会社、損害保険ジャパン日本興亜株式会社、東京国際空港ターミナル株式会社、東邦航空株式会社、株式会社日本空港コンサルタンツ、丸紅株式会社（順不同）

第2 事業実績

I. 文化事業

1. 講演会の開催

(1) 「航空と宇宙」定例講演会の実施

昭和58年の開講以来、幅広い分野から講師を迎えて航空と宇宙に関する定例講演会を開催している。令和元年度の定例講演会は、航空会館に於いて下表のとおり開催した。

回／ 開催日	演 題 ・ 講 師	参加人 数
283回 4月23日	大テーマ：「空の移動革命の実現に向けて」 各テーマ： ①「空の移動革命とその実現に向けた政府の取組み」	274名

	<p>経済産業省 航空機武器宇宙産業課課長補佐 海老原 史明氏</p> <p>②「On Demand Air Mobilityの実現に向けて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤマトホールディングス株式会社 eVTOLプロジェクトチーフR&Dスペシャリスト 伊藤 佑 氏 ・ベルヘリコプター株式会社 営業部長 正村 卓也 氏 <p>③「アーバンエアモビリティ(UAM)が拓く未来」</p> <p>エアバス・ジャパン株式会社 Strategy & Marketing Manager 小原 豪 氏</p>	
284回 7月19日	<p>「ANAのA380 と JALのA350、 新機種導入に秘められた戦略を探る！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全日本空輸株式会社 CEマネジメント室 商品企画部 プロダクト企画チーム マネジャ 牧 克亘 氏 ・日本航空株式会社 経営企画本部 経営戦略部 機材グループ長 /A350導入準備室長 木村 卓爾 氏 	257名
284回 7月29日 (追加)	同上 (申込多数により、同内容で追加講演を実施)	202名
285回 9月10日	<p>『空の日・宇宙の日』記念特別講演会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「飛行機開発におけるテストパイロットの視点」 元 航空自衛隊テストパイロット、 元 三菱重工業(株)テストパイロット 元 三菱重工業(株)名古屋航空宇宙システム製作所 小牧南工場長 渡邊 吉之 氏 2. 「日本版GPS～準天頂衛星と静止衛星による測位システムの 考案と高精度測位技術」 日本航空宇宙学会 理事 宇宙航空研究開発機構 第一宇宙技術部門 主幹研究開発員 河野 功 氏 	287名
286回 11月14日	<p>「アポロ50年に思う ～宇宙時代 第一期の終焉と新たな胎動～」</p> <p>JAXA名誉教授・はまぎんこども宇宙科学館館長 的川 泰宣 氏</p>	214名

(注) 第285回の『空の日・宇宙の日』記念特別講演会は、例年通り一般社団法人日本航空宇宙学会ならびに公益社団法人日本航空技術協会との共催である。

2. 展示会の実施

航空会館6階展示コーナーにおける展示を下表の通り行った。

展 示 期 間	展 示 内 容
平成31年4月～	『JSC presents デスクトップモデルの世界 外国のエアライン編』 模型75機

3. 航空図書館

航空・宇宙に関する専門図書館として1955（昭和30）年より運営。今年度はホームページでの検索機能を強化すると共に、推薦書コーナーの新設、スタッフに相談しやすい環境作り等に努めた。また、入口に滑走路カーペットを導入し、PRにも務めた。

(1) 利用状況（H31.4～R2.3の実績）

項 目		当該期	月平均	1日平均
開館日数	(日)	218	18	—
入館者数	(人)	1498	124	7
貸出登録証発行数	(件)	25	2	—
内 訳 (件)	(一般)	20	—	—
	(大学・短大等の学生)	5	—	—
	(小・中・高生)	0	—	—
貸出利用者数	(人)	179	14	0,8
貸出冊数	(冊)	466	2	2
複写利用者数	(人)	391	32	2
資料照会・利用案内件数	(件)	442	2	2

(2) 資料受入状況（H31.4～R2.3の実績）

	購 入	寄 贈	総計
	計	計	
図書(冊)	17	140	157
雑誌(冊)			825

4. 機関誌・図書の刊行

機関誌冊子版「航空と文化」は年2回発行し、広く航空宇宙にテーマを求めて編集している。当協会ウェブサイト内に開設のWEB版「航空と文化」は冊子版から記事の転載を含めて随時更新している。インターネット時代を反映し、多くの読者からアクセスされている。

(1) 冊子版「航空と文化」

No.119（1,600部）、No.120（1,600部）を発行した。

「航空と文化」No.119 夏季号 令和元年7月15日発行

「航空と文化」No.120 新春号 令和2年1月15日発行

(2) WEB版「航空と文化」

平成31年4月、令和元年5月～10月、令和2年3月に更新した。

(3) 航空統計要覧

「航空統計要覧2019年版」を 令和元年12月2日に発行した。

(4) 数字でみる航空

航空局からの依頼を受け、2019版より発行業務を開始。令和元年9月30日に発行した。

(1) 及び(2)の概要は、別表1(付1頁)の通り。

II. 航空遺産継承基金事務局業務

・航空遺産の調査寄贈資料の整理・修復、資料の貸出などの活動を実施した。

1. 賛助員

平成31年度、令和元年度賛助員の状況は以下の通り。

特別賛助員(累計) 11名、1団体

法人賛助員 29口(9法人)

個人賛助員 28口(27名)

2. 特別顧問及び専門委員

(1) 特別顧問

林 良博	独立行政法人国立科学博物館館長
三輪 嘉六	前独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館館長

(2) 専門委員

飯野 明	都立産業技術高等専門学校 名誉教授
北河 大次郎	文化庁 文化財調査官
鈴木 一義	独立行政法人国立科学博物館 産業技術史資料情報センター長、当協会 評議員
藤田 俊夫	航空史家
柳沢 光二	航空史家
横山 晋太郎	前かかみがはら航空宇宙博物館参事、独立行政法人国立文化財機構東京 文化財研究所客員研究員

3. 活動報告

(1) 航空資料保存に関する研究

前年に引き続き、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所と共同で実施している資料保存に関する研究を継続した。

(2) 寄贈資料

以下の寄贈を受けた。

1) 大槻統氏から皮製飛行帽を。

- 2) 元パンナム職員の米原晟介氏のパンナム関係の資料を。
- 3) 前田みなみ氏から故・前田勇夫氏（日本航空輸送（株）の航空機関士、1932年殉職）の関係資料を。
- 4) 河守鎮夫氏よりセスナの取扱説明書、パーツリストを。
- 5) 田中久盛氏より元 JAS 機長だった故・田中誠三氏の遺品（制服、免許、金杯など）を。
- 6) 小暮達夫氏より帝国飛行協会所有機体リストの修正版（エクセルデータ）を。
- 7) 筑波大学名誉教授の山田圭一氏より海外の航空博物館などのポストカード 145 枚および山田氏撮影の雲の写真 39 枚を。
- 8) 高橋正哉氏より故・高橋楠正氏の遺品である YS-11 などの写真 12 枚や航空機マニュアル 21 冊などを。

(3) 写真資料等の貸出

- 1) 三式戦闘機「飛燕」を岐阜かかみがはら航空宇宙博物館に貸出した
- 2) ユルゲン・パウル・メルツァー氏に著書用にアンリ・ファルマンなど写真計 20 枚を。
- 3) テレビ東京「東京 Good!」を制作する RHFactor（株）に代々木練兵場の写真 1 枚を。
- 4) (株) ホビージャパンへ『瑞雲飛翔』掲載用に、水上偵察機「瑞雲」などの写真 20 枚を。
- 5) 日本郵趣協会航空郵趣研究会へ「AEROPEX2019」展用に中島 4 型などの写真 8 枚を。
- 6) テレビ東京【自衛隊特番】用に番組制作会社ネクステップへ零戦の写真 1 枚を。
- 7) 都立武蔵野の森公園内で出土したプロペラの展示解説用に東京都建設局西部公園緑地事務所へ飛燕写真 1 枚を。
- 8) アンリ・ファルマンの展示解説用に所沢航空発祥記念館へ徳川好敏大尉のパイロットライセンスの写真 1 枚を。
- 9) NHK「ファミリーヒストリー」中村梅雀編用にプライマリー・グライダーの写真 2 枚を。
- 10) (株) 東京技術協会の 100 周年記念動画用として(株)チェリービーに YS-11 写真 2 枚を。
- 11) 岐阜かかみがはら航空宇宙博物館へ企画展「スピードを追い求めた幻の翼 研三一 KENSAN」用にスーパーマリン S6B などの写真 2 枚を。
- 12) 日本テレビ番組「嵐にしやがれ」用に(株)モスキートへ徳川好敏などの写真 4 枚を。
- 13) (株) 大修館書店へ世田谷区教育委員会発行の『教科「日本語」 中学校二年』掲載用にアートスミスの写真 2 枚を。
- 14) 大和ミュージアムの企画展「海から空へ」用に(株) トータルメディア開発研究所に飛行艇、誉発動機取説などの写真 32 枚、川西航空機飛行艇の試験飛行の動画 1 本を。

(4) その他

- 1) 国立科学博物館・筑波研究施設にて東大三米風洞に関連する資料調査を行った。
- 2) 海上技術安全研究所（三鷹市）において、風洞実験施設の調査を行った。
- 3) 岐阜かかみがはら航空宇宙博物館の企画展「スピードを追い求めた幻の翼 研三一 KENSAN」のための資料調査などで協力を行った。
- 4) 当協会ホームページ航空遺産継承基金アーカイブにおいて、『誉発動機取扱説明書』を

公開した。

- 5) 都立産業技術高等専門学校科学技術展示館において、重要航空遺産に認定した航空機の状態などを調査した。
- 6) 朝日新聞と朝日放送から、戦前に堺で撮影された飛行機の写った写真の調査に関連して取材を受けた。
- 7) 羽田飛行場格納庫内で行われた国立科学博物館の所蔵するYS-11のモーターリングに立ち会った。その後行われた分解作業において途中の状態も見学した。
- 8) 6階エレベーターホールに展示中のコードロン・シムーンの解説を更新した。
- 9) 南九州市の知覧特攻平和会館にて陸軍四式戦闘機疾風の調査に参加した。
- 10) 当協会所蔵の日本画掛け軸など6点の修理を実施した。
- 11) 『北海道新聞』より第二次世界大戦中の陸軍試作機キ106(北海道江別で製造された四式戦闘機「疾風」を木製化した機体)について航空史における位置づけについて取材を受けた。
- 12) 朝日新聞大阪本社が所蔵する航空史資料の調査をした。
- 13) 那須戦争博物館に収蔵されている航空関係の資料を調査した。
- 14) 秋田出身の航空黎明のパイロット佐藤要蔵(1894～1921:帝国飛行協会が養成)について、秋田テレビの取材を受けた。
- 15) 当協会が所有する飛燕について雑誌『ミスターバイクBG』の取材を受けた。
- 16) 東京都西部公園緑地事務所からの依頼により、調布飛行場近くから出土した第二次世界大戦期のプロペラの調査をした。
- 17) 当協会ホームページ航空遺産継承基金ギャラリーにおいて「高橋アルバム No. 4」を公開した。
- 18) 昭文社発行『福岡のトリセツ』の編集に助言を行った
- 19) オリンピア・マイゼの青図3枚と部品表58枚のデジタル化を行った。

Ⅲ. 航空スポーツ普及・振興事業

今年度の航空スポーツ活動は、日本選手権開催やFAI国際競技会への参加は例年通りであった。しかしながら競技者並びに愛好者の高齢化が顕著であり、若年層参画への取り組み等は引き続き大きな課題である。

国際航空連盟（FAI）活動では、年次総会が当初モロッコ（マラケシュ）で予定されていたが、当該国航空協会の財政的な問題等で開催が取り止めとなり、FAI本部があるスイス（ローザンヌ）で2019年12月に開催された。当協会より萩尾副会長はじめ3名が出席した。

本総会は、FAI新執行部体制が発足して初めての総会であり、FAIの安定的な運営を目指すため、年会費を増額した予算案や、2022年にトルコで開催を進めていたFAI主催ワールド・エア・ゲームズをはじめとした複数種目を同一国・会場で開催するマルチ航空スポーツ大会の中止並びに今後のFAI活動を検討する新プロジェクトの立ち上げ等を含む事業計画が承認された。また種目別国際エア・スポーツ委員会の総会へは、5つの委員会に日本代表委員が出席した。なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、2020年3月に開催予定であった国際気球委員会は中止となった。

アジア地域においては、航空スポーツの認知度向上、普及と振興、他組織へのアピール等を目的とする協議体としてFAIが承認するアジア航空スポーツ連盟AFA (Airsports Federation of Asia) の主要メンバー（執行役員）として活動した。

FAIがアジア地域の航空スポーツ振興を目的とした会議「FAI Air Sports in Asia Summit 2019(2019年5月)」のタイでの開催に協力し、当協会より岸参事はじめ2名が出席した。

本会議ではFAIの執行部と今後のアジアにおける航空スポーツの普及振興について意見交換が行われた。

FAI国際競技会では、FAI国際競技会では、模型航空ラジオコントロールヘリコプター世界選手権で、伊藤寛規選手が通算6回目の世界チャンピオンとなり、日本代表チームも通算12回目の団体優勝を果たした。国内で開催された競技会では、初の模型航空FPVドローンレーシング日本選手権が福島県のJビレッジで開催され、高野奏多選手が初の日本選手権者となった。高野選手をはじめ上位入賞者は小学生や高校生の若年層が活躍する結果であった。また、FAI公認（カテゴリーI）ワールドカップも日本（東京・お台場）で初めて開催され、日本選手権と同様に若年層が上位を占めた。

2019年7月文部科学省・スポーツ庁「スポーツ功労者や、国際競技大会優秀者等への顕彰・表彰式」が開催され、2018年アジア競技大会パラグライディングクロスカントリー種目で男子団体優勝した選手5名、指導者1名が表彰された。

【選手】岩崎 拓夫、呉本 圭樹、上山 太郎、中川 喜昭、廣川 靖晃

【指導者】岡 芳樹

当協会が把握している日本国内で発生した航空スポーツ重大事故（対象期間：平成31年4月1日から令和2年3月31日）は、8件（死亡者数5名）であった。各統括団体に対して組織的な安全対策構築に取り組むように、また、愛好者一人一人には機材整備・技量向上・地域気象判断は勿論のこと、航空スポーツのモットーである「安全に楽しく・他人に迷惑をかけない自己責任」の認識を徹底するように、引き続き各統括団体を通じて働きかけを行った。航空スポーツ団体の活動状況は、**別表2**（付3頁）の通りである。

競技選手、各団体会員をはじめ愛好者の高齢化が著しい。また若い世代の余暇の過ごし方の多様化、航空への関心離れ等が相まって航空スポーツ界人口の減少傾向に歯止めが効かない状況である。今後の対応策としては、協会が長年取り組んでいる航空普及教室の継続と、若い世代をはじめ多くの人々が航空スポーツを見たり、体験出来る新たな機会、情報発信を各航空スポーツ団体等と共に実施していくことが肝要である。そうした取り組みが航空スポーツのみならず、広く航空愛好者を獲得し、航空宇宙活動の活性化を行うための重要な課題となる。

2. 国際航空連盟（FAI）に関する活動

- (1) 第113回FAI総会が開催され、日本代表として当協会より3名が出席した。

会議名	期間	開催地	出席者
第113回総会	2019年12月5日 ～6日	ローザンヌ (スイス)	萩尾 裕康 岸 周豊 田中 彩香

- (2) 種目別国際エア・スポーツ委員会、技術委員会に関する活動
各委員会の開催期間、開催地及び出席者は下表の通り。

会議名	期間	開催地	出席者
国際模型航空委員会	2019年04月4日 ～6日	ローザンヌ (スイス)	日本模型航空連盟 廣瀬 春信
国際ジェネラル・アヴィエーション委員会	2019年11月8日 ～10日	ダックスフォード (イギリス)	(公社) 日本航空機操縦士協会 鐘尾 みや子
国際マイクロライト・パラモーター委員会	2019年11月21日 ～23日	ブカレスト (ルーマニア)	日本パラモーター協会 五十嵐 亮
国際ハング・パラグライディング委員会	2020年01月30日 ～02月02日	ローザンヌ (スイス)	(公社) 日本ハング・ パラグライディング連盟 岡 芳樹
国際滑空委員会	2020年03月06日 ～07日	ブダペスト (ハンガリー)	(公社) 日本滑空協会 甲賀 大樹

- (3) A F A (AFA: Airsports Federation of Asia) 総会、執行役員会議

会議名	期間	開催地	出席者
2019年執行役員会議 (FAI Air Sports in Asia Summit2019)	2019年6月14日 ～15日	バンコク (タイ)	岸 周豊 松崎 真也

3. 選手権等

平成31年4月～令和2年3月に実施された日本選手権は、模型航空機とハング・パラグライダーの2種目、計20サブクラスを当協会が公認し、18サブクラスが成立した。また、日本で開催されたFAI国際競技会（カテゴリーI、II）は、模型航空機とハング・パラグライダーの2種目、計6サブクラスがFAIより公認され、全て成立した。

海外で開催されたFAI国際競技会（世界選手権、大陸選手権）には、滑空機曲技、滑空機、模型航空機、ハング・パラグライダー種目に日本選手が参加（派遣）した。

各種競技会の実績は、**別表3**（付3～8頁）の通り。

4. 記録の公認等

平成31年4月～令和2年3月に当協会が認定した日本記録は、滑空機2件、熱気球2件であった。また、FAIより認定された国際記録は、滑空機2件（オセアニア大陸記録）であった。

別表4（付8～10頁）を参照。

5. 航空スポーツ教室、こども模型飛行機教室「スカイ・キッズ・プログラム」の開催

子供達に航空スポーツを安全に楽しむ機会を提供することにより、空に対する憧れや科学する心、自然に親しむ心を醸成することを目的に理論と体験を組み合わせた「航空スポーツ教室」と「こども模型飛行機教室」（こども模型飛行機教室全国推進委員会共催）を「スカイ・キッズ・プログラム」として昨年に引き続き実施した。

(1) 航空スポーツ教室

以下2箇所で開催し、熱気球の係留体験搭乗後、模型飛行機教室(ゴム動力飛行機製作、飛行)及びパラグライダーふわり体験を実施した。指導については、日本気球連盟、日本模型航空連盟、(公社)日本ハング・パラグライディング連盟の協力を得た。

東京臨海広域防災公園（8月3日～4日、参加者：1,256名）

谷中防災広場 初音の森（1月26日、参加者：62名）

(2) こども模型飛行機教室（こども模型飛行機教室全国推進委員会共催）

20回の開催が決定していたが、台風や新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、最終的に15回（参加した子供476名）の開催であった。教室では、オリジナルの座学用DVD（飛行の歴史、航空スポーツ紹介）や揚力実験装置等を用いて座学を行ない、オリジナルゴム動力模型飛行機（スカイ・キッズ号）の製作、飛行調整・ミニ競技を実施した。

6. 青少年航空宇宙絵画国際コンテスト

国際航空連盟（FAI）が主催する青少年を対象とした国際絵画コンテスト「2020FAIヤング・アーティスト・コンテスト」の国内予選を、昨年に引き続き開催した。

今回は「夢のフライト～過去から未来へ～（原題：Flying Yesterday and Tomorrow）」をテーマに全国より総数564名から応募があり、令和2年2月20日開催の審査会の結果、下表の通り9名が入賞した。なお、優秀賞9作品は、FAI国際コンテストに日本代表として出品した。

優秀賞

クラス	氏名	住所	題名
6～9歳 (年少)	武田 南穂	高知県高知市	みんなと一緒にレッツ・ゴー！
	高橋 佳耀	広島県広島市	ソファークロケットで宇宙に行ったよ
	岩本 梨依	広島県広島市	宇宙に行って星をつかまえよう！
10～13歳 (年中)	今井 奏良	群馬県前橋市	過去と未来を横断するアカデミックバルーン
	渡部 朔矢	埼玉県上尾市	夢の翼を追い続けろ～Spirit of Ikaros～
	倉持 玲衣花	東京都立川市	プテラノドンに乗って
14～17歳 (年長)	長内 一紗	東京都江東区	つながる
	今泉 明音	大分県臼杵市	あこがれ
	古橋 諒	静岡県浜松市	時空飛行船

7. 主催・後援事業

主催・後援事業等は、**別表5**（付11～12頁）の通り。

IV. 表彰・弔慰援護事業

(1) 令和元年度表彰

6月26日開催の表彰委員会で、令和元年度の日本航空協会賞各賞の受賞者を決定し、9月20日に国際航空連盟（FAI）賞各賞の伝達式、日本記録証授与式を兼ねた航空関係者表彰式を航空会館において行った。

1) 日本航空協会賞

種 類	受 賞 者 (敬称略)
航 空 亀 齡 賞	落合 一夫、近藤 秋男、原茂 太一、二木 節夫、道上 恵三郎
航 空 功 績 賞	石井 潔、石原 敬三、川井 昭陽、戸矢 博道
航空スポーツ賞	伊藤 寛規、模型航空世界選手権ラジオコントロールヘリコプター (F3C) 日本代表チーム

2) 国際航空連盟（FAI）賞

種 類	受 賞 者 (敬称略)
FAIエア・スポーツ・メダル	佐藤 真一、吉田 正、上山 憲一、朝日 和博
FAIヤング・アーティスト・コンテスト賞	猿渡 果凛

協会賞及びFAI賞の詳細は、**別表6**（付13～15頁）の通り。

記録の詳細は、**別表4**（付8頁）の通り。

2. 弔慰援護

航空関係物故者7名について、航空育英会を継続実施し、今年度の給付奨学金総額は1,008千円、受給奨学生の人数は7名で、その内訳は、小学生1名、中学生2名、高校生2名、大学生2名であった。

V. 航空交流事業

1. 新年賀詞交歓会

当協会が世話役の代表となって毎年開催する恒例の賀詞交歓会は、令和2年1月7日航空会館において、青木一彦国土交通副大臣、佐々木紀国土交通大臣政務官、和田浩一航空局長など航空関係者408名が出席して盛大に行われた。

2. 航空神社祭事

令和元年9月20日に航空会館9階において、航空各社代表、祭神である航空殉職者・功労者の遺族の参列を得て、靖国神社神官の出張奉仕により航空神社平安祈願例大祭を実施した。

令和2年1月7日に新年祭を執り行った。

VI. 全国地域航空システム推進協議会 事務局業務

総会にて承認された事業計画に基づき、次の通り事業活動を行った。

国への要望活動については、令和元年度で特例措置が終了する航空機燃料税の軽減、航空機に使用する部分品等に係る関税の免除、地球温暖対策税の還付、航空機の固定資産税に係る課税標準の特例等の延長を要望し、決定した。その他、乗員及び整備士の確保等、地域航空の喫緊の各種課題に対しても要望を続け、国の予算項目として一定程度反映することが出来た。

また、5年ごとに見直し検討が行われる国交省主催の「羽田発着枠検討小委員会（国内線の回収・再配分）」においては、地方自治体の唯一の代表として地方航空ネットワークの重要性を意見させて頂き、回収枠はほぼ地方路線に再配分される結果を得た。

さらに九州の地域航空3社と大手航空2社による地域航空サービスアライアンス有限責任事業組合(EAS LLP)が10月に設立され、平成28年度より国の検討と両輪で進めてきた当協議会の「地域航空の新たな枠組づくりに向けた検討会」としても一定の成果を得た。

1. 国への要望活動

地域航空システム推進のため、国への要望活動を5月（総会での承認後、会長県の長崎県 中村 法道知事から航空局長、他へ）と11月（会長県の長崎県企画振興部新幹線・総合交通対策課長から航空局 航空事業課長、他へ）の2回行った。

（主な要望項目）

I. 地域航空と混雑空港の関わりについて

混雑空港への地域航空の安定的乗り入れの実現について

II. 地域航空の安定的な路線の維持について

- ①地域航空事業者の経営強化対策について
- ②離島航空路線維持対策の拡充等について
- ③地方航空路線の維持対策について

III. 空港機能の強化・老朽化対策について

- ①震災、災害を踏まえた空港機能の強化について
- ②地方が管理する空港の老朽化対策及び整備等に対する助成制度の拡充について

2. 研究調査

(1) 地域航空の新たな枠組づくりに向けた検討

2019年10月25日、九州の地域航空3社と大手航空2社による地域航空サービスアライアンス有限責任事業組合(EAS LLP)が設立され、各種検討が開始されている。全地航では、これまでの地域航空における研究調査についてEAS LLPに情報提供を行った。

(2) 地域航空ネットワークの維持・拡充

国土省主催の「羽田発着枠検討小委員会（国内線の回収・再配分）」の委員会において、地方自治体の唯一の代表として地方航空ネットワークの重要性を意見させて頂き、回収枠はほぼ地方路線に再配分される結果を得た。

全国各地域の優良な利用促進等の取組事例に係る企画立案方法の構築やノウハウ等の有効な情報の普及・共有を目的に「地方航空路線維持活性化に向けた関係者連絡会議」が航空局主催で2回開催され、内1回を全地航が事務局として受託した。

3. 研修会の開催

令和2年1月28日に実施し、146名が参加した。

テーマ	講師
地方航空の現状と今後の展望について	国土交通省 航空局 航空ネットワーク部 航空事業課 地方航空活性化推進室長 植木 隆央 氏
訪日外国人旅行の促進における課題と取組みについて	日本政府観光局（(独) 国際観光振興機構 JNTO） 企画総室長 藤田 礼子 氏
地方空港の航空路線の拡充に向けた分析の視点	株式会社 日本空港コンサルタンツ 国内業務本部 計画部 グループリーダー 錦織 剛 氏

4. 地域振興のための啓発活動

地域振興のための啓発活動として「地域航空フォーラム 2019」（第20回）を以下のとおり開催した。

日 時：令和元年11月19日(火) 14:00~17:30

場 所：日本大学 経済学部7号館2階講堂（東京都千代田区神田三崎町2-8-14）

参加人数：157名（参加無料）

テーマ：『羽田空港の発着枠の回収・再配分と地域航空ネットワーク』

(1) 基調講演

「地方航空ネットワークの活性化に向けて」

川端 達史氏（航空局航空ネットワーク部 航空事業課 総括課長補佐）

(2) 地方自治体の地域航空ネットワーク活性化に向けた取り組み

鳥取県の取り組み

門脇 誠司氏（鳥取県 交流人口拡大本部 観光交流局長）

山形県の取り組み

酒井 達朗氏（山形県 企画振興部 総合交通政策課長）

(3) パネルディスカッション

コーディネータ：加藤 一誠氏（慶應義塾大学商学部教授）

パネリスト：門脇 誠司氏（鳥取県 交流人口拡大本部 観光交流局長）

(50音順) 酒井 達朗氏（山形県 企画振興部 総合交通政策課長）

西尾 忠男氏（日本航空(株)常務執行役員 経営企画本部長）

平澤 寿一氏（全日本空輸(株)執行役員 企画室長）

Ⅶ. 「空の日」・「空の旬間」実行委員会事務局業務

以下の通年事業を実施した。

(1) 第67回「空の日」航空関係功労者大臣表彰

9月20日に国土交通省共用大会議室にて実施した。

(2) 広報活動

青少年向けに開設している空の日ホームページの普及と充実、Facebook、協賛各社・団体保有の機関誌等紙面への空の日に関する記事掲載（無償）、航空教室、空港イベント等での「空の日」ポスター告知、普及振興グッズの配布、「くにまる」の着ぐるみを各イベント会場等で活用し、広報活動に努めた。

(3) 中学生派遣事業

海外派遣コース（4泊6日）は、成田地区の中学2年生6名を対象とし、B787の製造を行っているボーイング・エバレット工場等の航空関連施設見学、本邦航空会社の操縦士養成施設見学、現地高学生との交流会等を実施した。

(4) 絵画コンテストの支援

応募チラシの印刷費の一部補助と国際入賞者へ複製パネルを制作した。

(5) 地方事業の支援

全国の空港等で開催される空の日イベントに対し、事業費の一部を定額（5万円）補助した。さらに、意欲的なイベントを計画した空港等に重点的に追加補助を行うことで、操縦

士、整備士等の空港の現場を支える人材の確保のための積極的なPR活動を行った。

(6) 啓発事業の支援

青少年を対象とする「航空教室等」および航空スポーツ分野の安全に関する講演会、講習会等の取り組みに対して事業費の一部を支援した。

(7) その他

関東近郊の中学生10名を対象とし、ANAのオフィス見学、JALの格納庫、スカイミュージアムの見学を8月20日に実施した。

VIII. 国際線発着調整事務局業務

平成20年1月我が国の混雑空港である成田国際空港及び関西国際空港の国際線発着調整業務が日本航空協会に委嘱されたが、平成22年2月新たに東京国際空港（羽田）における国際線・国内線発着調整業務が追加委嘱された。加えて、平成24年8月新千歳空港における国際線・国内線発着調整業務が追加となり、更には平成27年8月福岡空港における国際線・国内線発着調整業務が追加委嘱された。従って、令和元年度においては、成田、関西、羽田、新千歳、福岡空港の5混雑空港における国際線・国内線に関する冬ダイヤ、夏ダイヤの調整作業を中心として、IATA（国際航空運送協会）会議等への貢献に加え、事務局の中立性、公平性、透明性等を更に推進するため下記に示すような業務を実施した。

1. 2019年冬ダイヤ、2020年夏ダイヤの調整

成田国際空港、関西国際空港、東京国際空港（羽田）、新千歳空港及び福岡空港の国際線・国内線スケジュールに関し、IATAのWSG (Worldwide Slot Guidelines) 及び当該空港のローカル・ガイドラインに基づき、下記の調整を日本乗り入れ航空会社（約120社）と実施した。

(1) 2019年冬ダイヤ（10.27, 2019 - 3.28, 2020）の調整

1) IATA SC (Slot Conference) 事前調整

2019年冬ダイヤの調整に当たり、前年同期の運航実績を各航空会社に送付（4月中旬）、運航実績の相互確認を行い、各航空会社からの希望スケジュールの提出（5月中旬）を受け、希望スケジュールを規制値内に収めるよう調整し、一次回答（6月初旬）を内外の航空会社に対して行った。

2) IATA SC (Slot Conference) 144回会議への参加

SC144回会議が南アフリカ共和国・ケープタウンにて6月18日～20日の間開催され、日本乗り入れ航空会社と個別面談方式により2019年冬ダイヤにおけるスケジュール調整を行った。加えて、航空局が、2020年開催の東京オリンピックに向けた成田空港、羽田空港の増枠計画における規制値、不定期便の調整方針についてワークショップを開催し説明を行った。

(2) 第9回空港発着調整委員会の開催

平成22年度に、レベル3の混雑空港（成田、羽田空港）を対象として、空港当局、管制機

関、参入航空会社等で構成される首都圏空港発着調整委員会が設置された。更に、平成27年8月福岡空港がレベル3の混雑空港として追加されたことから、委員会の名称・規約の変更を行い「空港発着調整委員会」と名称を変更して再スタートすることとなった。本年度においては、第9回空港発着調整委員会を開催した。

2020年夏ダイヤに向けて、第9回空港発着調整委員会を9月30日航空会館7階大会議室において開催した。主たる議題は、①2020年夏ダイヤに向けた調整方針（規制値）、②成田国際空港に関する報告（運用状況、スロットの監視）、③東京国際空港（羽田）に関する報告（運用状況、スロットの監視）、④福岡空港に関する報告（運用状況、空港施設拡張計画、スロットの監視）、⑤首都圏空港機能強化に関する報告（成田空港の施設拡張計画、羽田空港の施設拡張計画）、⑥スロットのミスユース、落下物対策、羽田空港における管制指示逸脱等であった。

(3) 2020年夏ダイヤ（3.29 - 10.24, 2020）の調整

1) IATA SC (Slot Conference) 事前調整

2020年夏ダイヤの調整に当たり、前年同期の運航実績を各航空会社に送付（9月初旬）、運航実績の相互確認を行い、各航空会社からの希望スケジュールの提出（10月初旬）を受け、希望スケジュールを規制値内に収めるよう調整し、一次回答（10月下旬）を内外の航空会社に対して行った。

2) IATA SC (Slot Conference) 145回会議への参加

SC145回会議がオーストラリア・ブリスベンにて11月12日～15日の間開催され、日本乗り入れ航空会社と個別面談方式により2020年夏ダイヤにおけるスケジュール調整を行った。

2. WWACG会議、JSAG会議、IATA, ACI, WWACGの3者協同で設立したWASB会議への貢献

発着調整事務局の国際的組織であるWWACG (Worldwide Airport Coordinators Group) 会議のボード・メンバー（7ヶ国）として、JSAG会議への参加、又IATA、ACI (Airport Council International)、及びWWACGの3者協同で設立したWASB (Worldwide Airport Slot Board : 航空会社7社、空港会社7社、コーディネーター7機関の21名で構成される合同会議) 会議の運営に対して、日本及びアジア太平洋地域の代表としての貢献を行った。

WASBとは、2019年6月に、IATA、ACI、WWACGの3者がWSGの変更に係わる手続に関してMOU（基本合意書）を交わしたことにより設立されたものである。WSGはこのMOUに基づき、今後WASBを構成する21名により審議され、変更点についてもこのWASBにより承認されることとなった。この会議体の設立により、従来のJSAG (Joint Slot Advisory Group) は解消されることとなった。

国際線発着調整事務局長が、WWACGの次期ボードメンバーとして立候補していたが、SC145会議に並行して開催されたWWACG/02全体会議の選挙において承認された。WWACGのボードメンバーとして承認を受けたことで、WASBのメンバーとしても参画することとなった。

これらの会議では、スケジュール調整に関する問題点の抽出、問題の解決に向けた議論、得られた

解決案を反映するためIATAのWSGの規則改定の実施等について幅広く議論がなされるが、これら会議に日本及びアジア太平洋地域の代表として参加し各種提言を行った。

(1) WWACG/B4ボード会議、JSAG/62会議、WSRMG/9会議への参加

IATA SC144回会議に先立ち、WWACG/B4ボード会議が6月16日、IATAのJSAG/62会議が6月17日、南アフリカ共和国・ケープタウンにて開催され、問題点解決に向けた議論を行った。加えて、WSGの抜本的改訂を行う目的で、WSG戦略的見直しグループ(WSRMG)の第9回会議が会議期間中の6月22日開催された。

(2) WWACG/B5ボード会議、JSAG/63会議への参加

WWACG/B5ボード会議が9月3、4日、IATAのJSAG/63会議が9月5日、スイス・ジュネーブのIATA本部にて開催され、問題点解決に向けた議論を行なった。

(3) WWACG/B6ボード会議、WSRMG/10会議への参加

IATA SC145回会議に先立ち、WWACG/B6ボード会議が11月9日、オーストラリア・ブリスベンにて開催され、問題点解決に向けた議論を行った。また、WSRMG/10会議が会議期間中の11月14日開催された。

(4) WWACG/B7ボード会議、WASB/01会議

当初、WWACG/B7ボード会議が3月23日、24日、WASB/01会議が3月25日、マレーシア・クアラルンプールにおいて開催が計画されていた。ところが、東南アジアにおける新型コロナウイルスの蔓延で、急遽会議場がスイス・ジュネーブに変更された。最終的には、新型コロナウイルスの欧州における蔓延により、6月のスロット会議まで延期されることとなったが、この6月のスロット会議も中止となったため、第1回会議の開催は現在未定となっている。

3. APACA(アジア太平洋発着調整事務局連合)会議の開催

日本・オーストラリアが中心となってアジア太平洋地域における発着調整事務局の連合設立の働きかけを行ない、SC127会議(2010年開催)において正式にAsia/Pacific Airport Coordinators Association(APACA)が発足した。このAPACAの主目的は、アジア太平洋地域の各コーディネーターが抱える問題点の共有、解決策の模索、IATAガイドラインの啓蒙等であり、発着調整組織の国際的組織であるWWACGの下部機関として活動することである。本年度においては、第18回、第19回APACA会議を開催した。

(1) APACA/18会議

SC144会議期間中の6月19日、第18回APACA会議を開催した。第18回会議では、WSG改訂(Edition 10)概要、WSGの今後の見直し体制(WASB)、WWACGのメンバーシップ、コーディネーターの独立性・透明性等について議論を行った。

(2) APACA/19会議

SC145会議期間中の11月12日、第19回APACA会議を開催した。第19回会議では、WWACGの選挙結果報告、WSG改訂に伴うイニシャルアロケーションにおける優先順位、WSGの今後の見直し体制(WASB)、SHL、SAL送付日の公示、香港における民主化デモ等

因するヒストリックの猶予についての議論を行った。

4. 国際線発着調整事務局「運営協議会」

従来、国際線発着調整事務局を資金面、組織面で支援してきたのは、日本航空(株)(JAL)、全日本空輸(株)(ANA)、日本貨物航空(株)(NCA)、成田国際空港(株)、関西エアポート(株)の5社であったが、事務局の更なる独立性、中立性、公平性を確保するため、全本邦航空会社、全混雑空港からの支援を受容できるような体制強化を図った。

平成28年12月、本邦航空会社16社、空港会社等8社から成る「国際線発着調整事務局運営協議会」を設立し、資金的支援、人的支援を受けることとした。本年度においては、第6回、第7回運営協議会を開催した。

(1) 第6回 国際線発着調整事務局運営協議会の開催

第6回 国際線発着調整事務局運営協議会を7月18日に開催した。この会合において、①平成30年度決算報告、②平成30年度事業報告、③令和元年度予算・業務体制報告、④基本覚書の変更、⑤2019年冬期スケジュールの調整状況報告、⑥運営協議会メンバーに対する情報開示、⑦IATAの動向、⑧海外技術協力等の議題に関し議論し承認を得た。

(2) 第7回 国際線発着調整事務局運営協議会の開催

第7回 国際線発着調整事務局運営協議会を12月18日に開催した。この会合において、①令和元年度第1～第3四半期予算執行状況報告、②令和2年度人事体制(案)、③令和2年度予算(案)、④令和2年度運営資金分担(案)、⑤運営協議会規約の変更提案、⑥基本覚書の変更提案、⑦2020年夏期スケジュールの調整状況報告、⑧IATAの動向等の議題について議論し承認を得た。

5. 国際線発着調整事務局の中立性等の推進

IATAのWSGには、国際線発着調整事務局の中立性、公平性、透明性等の確保に関するガイドラインが定められているが、当事務局として更にこれらを推進するため、又アジア太平洋地域の主要メンバーとして下記に示すような種々の取り組みを行った。

- (1) アジアン・ブリーズ第63号(カンボジア国発着調整事務局特集)を発刊した。(4月)
- (2) アジアン・ブリーズ第64号(タイ国発着調整事務局特集(1))を発刊した。(6月)
- (3) 第6回国際線発着調整事務局に関する運営協議会を開催した。(7月)
- (4) アジアン・ブリーズ第65号(タイ国発着調整事務局特集(2))を発刊した。(8月)
- (5) 第9回空港発着調整委員会を開催した。(9月)
- (6) アジアン・ブリーズ第66号(タイ国発着調整事務局特集(3))を発刊した。(10月)
- (7) 第7回国際線発着調整事務局に関する運営協議会を開催し、令和2年度の予算案を可決した。(12月)
- (8) アジアン・ブリーズ第67号(ニュージーランド国発着調整事務局特集(1))を発刊した。(12月)
- (9) アジアン・ブリーズ第68号(ニュージーランド国発着調整事務局特集(2))を発刊した。(令和2年2月)

- (10) 航空保安大学校へ講師を派遣し、これから全国各地に赴任していく航空管制運航情報官を対象として、国際線発調整業務の説明を行った。(令和2年2月)

6. 日本乗り入れ航空会社数

現在、国際線発着調整事務局において、スケジュール調整を行っている日本乗り入れ航空会社数は、延べ120社であり空港毎に下表のとおりである。

地 域	成田国際空港	東京国際空港 (羽田)	関西国際空港	新千歳空港	福岡空港
日本	11	8	6	10	14
北米(カナダ、メキシコ含)	10	5	6	1	3
欧州	20	9	9	3	1
アジア・オセアニア、南太平洋	63	26	66	34	42
その他(中東、アフリカ等)	7	3	3	0	0
合 計	111	51	90	48	60

IX. 航空会館運用事業

(1) 航空会館のテナント貸室事業

日頃寄せられるテナントからのご意見に対して、安全・衛生的、快適に利用出来るように日々のきめ細かな管理・運営に努めた。テナントは満室である。

(2) 貸会議室事業

都内・近隣の貸会議室が急増し競争が厳しくなる中、引き続き顧客へのきめ細やかな対応を心掛け、サービスの向上に努めた。消費税率改定に伴い料金の見直しを行い、またホームページをスマートフォン対応にリニューアルした。2月下旬以降は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためキャンセルが相次いだが、今年度予算は達成することができた。

営業：日祝営業の推進、Web広告対策(WEB広告、検索順位向上対策)

設備：ホームページリニューアル

Ⅹ. 航空クラブ

広く航空に携わる人々を中心に設立された航空クラブは発足から41年目を迎えた。

令和元年度の会員動向はご高齢会員の退会もあり385名となった。

航空クラブの活動としては、防衛大学校長 國分 良成 氏、東京慈恵会医科大学附属病院脳神経外科教授 谷 諭 氏を講師とした卓話会の開催、防衛大学校（防大ツアー）、JAL救難訓練施設、ANA Blue Base（総合トレーニングセンター）および安全教育センターの見学会を、また、ワインの夕べをオーストリア共和国駐日本国大使公邸において実施した。

また、航空局 平岡成哲航空ネットワーク部長による新春卓話会を開催した。

同好会の活動としては、囲碁、書道、太極拳、写真の各同好会は、航空会館の会議室等を利用して毎月の定例会や大会を開催し、会員相互の親睦と啓発に努めた。

機関誌「航空クラブニュース」は3回（うち1回はWEB版）刊行し、卓話会の内容や各同好会の活動紹介などを掲載し、会員に情報を提供した。

会員数は、次の通り。

会員数（令和2年3月31日現在）

	東京	地方	計
個人会員	38	6	44
推薦会員	69	10	79
特別会員	60	2	62
特別法人会員	185	15	200
合計	352	33	385

(2) 航空クラブニュース

発行号	発行月
133	令和元年5月
134	令和元年10月
135	令和2年4月（WEB）

事業報告に係る附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はありません。